

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570201048		
法人名	社会福祉法人 報謝会		
事業所名	グループホーム ミューズの空 庄内	ユニット名	1号館
所在地	都城市庄内町8122番地1		
自己評価作成日	平成29年6月27日	評価結果市町村受理日	平成29年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570201048-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4570201048-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年7月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周りは田畑に囲まれ、敷地内も広く施設内を散歩出来、のんびりと生活して頂ける環境である。建物は古いですが、施設内は清掃が行き届き居室は畳敷きである。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市内より離れた環境にあり、周辺には田畑や緑の多い閑静な環境にある。敷地も非常に広く、畑作業を利用者のレベルに応じて行っている。施設内の環境美化を徹底して行い、利用者が過ごしやすい居住を心掛けている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	報謝会理念を中心に朝礼時に復唱し理念を共有して実践に繋げる様、努力している。		法人の理念を基本にグループホームの理念を3ユニット共通で作成しており、職員で毎日唱和することで理念の共有と日常のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はしていないが夏祭り等の季節行事の際、子供会による神輿や小学生訪問・中学生の職場実習の受け入れを行っている。また、年に数回清掃活動として地域の清掃活動を行っている。		職員を中心に地区の清掃活動に参加している。また、事業所で開催する夏祭りに近隣より参加がある。その他小・中学生の職場実習などの受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組みで、小学生を対象とした認知症の勉強会を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際・評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行って、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努力している。		運営推進会議には市役所や警察署などからも出席があり、感染症や防犯の情報を共有するほか、事業所の現状報告などを行い、ケアの実践に会議での意見を反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連絡を密に取ってはいるが、運営推進会議を通して現状や取り組みについての説明を行い市からの助言や情報を頂き取り組んでいる。		介護保険をはじめ、市役所の各課と連携を図り、利用者の受け入れの情報交換やケアの質の向上を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を立ち上げ身体拘束について内容の理解とケアに努めているが、施錠等について状況によっては安全を重視するか否か悩む場面もある。		身体拘束委員会を立ち上げ、職員の知識や技術の向上を図るほか、法人内での研修や事業所外の研修に積極的に参加し、身体拘束の防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束委員会を中心に勉強会を行い学んでいる。職員同士が互いに注意し合い、虐待予防に努める。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修等にて学んでいるが、殆どどの職員が学ぶ機会がない為理解出来ていない。ただ、入居中のご利用者様に対象ではないかと思われる方がいますので職員には必要性を話している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、家族と一緒に契約の内容を確認し合いその場で不安や疑問点を尋ね説明・理解してもらっている。また、契約前・契約後もご家族の相談に応じている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、その状況に合わせて利用者の思いを聞き、ご家族に伝えたり現状報告を行い相談やご家族の意見を伺う。	来訪時に家族との対話を積極的に図ることにより、意見の収集に努めている。また、遠方の家族には手紙やメールなどで意見のやり取りを行い、ケアの実践に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や棟会議の中で、それぞれの意見や提案を聞く機会を設けている。	職員会議や各ユニットでの個人面談を定期的に行い、職員からの意見を集約することで、設備改善や利用者のケアに反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足により、労働時間の延長等、やむを得ない状況にある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、研修に力を入れている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会による研修等が計画されているが同業者と交流する機会作りはなされていない。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思伝達可能な利用者に対しては、会話等にて意向や要望を聞いているが、困難な利用者の場合ADLの状態や行動から汲み取りいろいろと試してみる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話にて状況を説明し、家族の意向を尋ねている。時にはメールにて状況報告や本人の要望を伝えることもある。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも利用できる様柔軟に対応できるように努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者というより、家族の一員としての思いで接しています。時には親や祖父母に置き換えて。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を面会に来られた際、ご家族に伝えています。本人の希望が強い時は電話にて様子を伝え面会等お願いしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が逢いたいと思っている方や行きたいと思っている場所等、ご家族に思いを告げ可能であればご協力をお願いしている。ご家族の希望で、ご本人様の事を思い一部の方のみにしか会う事が出来ない方がいます。	家族の協力のもと、外出を行うほか職員も同行し、墓参りなどの外出を行っている。また、遠方の家族には電話や年賀状のやり取りなどを行っている。随時来訪者の受入れなども行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく個人のこれまでの生活歴を尊重しながら、過度な関わり合いを押しつけない様、性格等考慮しながら支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から(本人を含む)の要望があれば、相談や支援も応じることは可能であるが、これまでに契約終了後の相談等はない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と生活していく中で思いや希望を知り難い場合はご家族からの情報を参考に把握に努めている。	入居前には自宅での生活の様子を把握するために、自宅での面談の徹底を行っている。入居後も本人や家族とのやり取りで生活歴などの情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族からの情報提供を基に、その人を知る努力と理解をし現状を知るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが日常生活の中で現状の把握に努め気付きや知りえた情報を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において現状を話し合い、課題としてあがった事について、どのようにケアしていくかを介護職・看護職それぞれの立場から意見やアイデアをうけ介護計画を作成している。	各ユニットで職員会議を開き、全職員が利用者個人のケアへの意見交換を行い、介護支援専門員や計画作成担当者を中心にその意見を集約し、介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基に、個別記録に記入し、職員間で情報を共有をしながら、実践・見直し等に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む努力はしている。ご家族の都合、医療関係との連携等にてすぐに動けないこともある。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの美容師さんに安価で訪問理容をお願いしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の下、必要であれば、整形外科・婦人科・精神科等専門の医療機関との連携を持ち支援している。	協力医院の往診を中心に、各々の希望に沿った医療機関を受診できるように家族の協力を得ながら受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職からの情報を、看護記録ノートに記入し、担当看護師の出勤時に口頭での説明と共に伝達・指導を受けている。通院時は看護師をサポートすべく、状態記録を作成している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を通じて、情報交換や相談等を行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の手続きの段階で重度化した場合や終末期についての説明を行っている。本人の意思(思い)を尊重しながらご家族と職員が医師との今後の取り組みについて話し合い、支援に取り組んでいる。	入居前には終末期などについて、家族に説明や確認を行っている。入居後も利用者の現状に合わせて主治医との連携や家族への意向確認を随時行い、安心して終末期を過ごせるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。 緊急時は看護師と連絡を取り、指示にて対応する。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練について、定期的に行っているが、日中に起きた場合のみで、夜間時の訓練は行っていない。また、地域との協力体制も築けていない。	火災の避難訓練は定期的に行われているが、夜間想定や地震に対する訓練に至っていない。また近隣との協力体制がなかなか構築されない実情がある。	今後は夜間想定での火災や地震に対する避難訓練を近隣住民の協力を得ながら実施し、災害等に備える体制の構築を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、生活歴や性格等を考慮しながら言葉かけや対応を行っている。		利用者への声かけは名字や生活歴でなじみのある呼称で行う。排せつや入浴に関しても同性介助での実施など個人の尊厳に配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を汲み取っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活出来る様、見守りや声掛け等行っている。日中の職員数が少ない為、業務を優先せざるを得ない状況もまれにある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては気をつけているが、おしゃれについてはなかなか支援しきれていない。清潔保持には努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片づけは出来ていないが(厨房より配食)会話をしたり介助しながら一緒に食事を楽しんでいる。		法人内に配食センターがあり、食事は配食され、真空パック・冷凍での備蓄も備えている。職員が食事介助などを行いながら一緒に食事をとり、明るい雰囲気での時間を設けている。個々の力量に応じて、盛り付けや配膳・下膳を共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態、水分量に関しては、個々状態や嚥下機能等考慮しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後や就寝前に声掛けや一部介助を行っている、歯科医・衛生士による定期訪問治療、口腔ケアも行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導と声掛けを行っている。日中は車椅子使用の方もトイレ誘導を行い、二人介助にて排泄をして頂く。歩行に不安がある方はポータブルトイレを使用して頂く。	可能なかぎり、離床して排泄ができるように支援をし、利用者の多くがトイレやポータブルトイレでの排泄ができるように支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を基に職員間の情報を通じて便秘にならぬよう便秘薬の調整や、腸に良い乳酸品を使ったおやつ等を提供している。また、トイレの際、お腹のマッサージも行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせての入浴は殆んど行っていない。ただ、失禁等によっては清潔保持の為シャワー浴等支援している。	利用者は週3回の入浴を基本とし、その他希望時には、利用者の意向に沿って入浴ができる体制を整えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、それぞれの就寝時間や、その日の体調等に合わせて休んでもらっている。天気の良い日は布団干しをし気持ちよく眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が定期薬処方時に配布されるので、毎回確認を行っている。状態についての情報を医療側に伝え調整等をしていただいている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の散歩をしたり、レクリエーション委員会を中心に季節に応じた行事等、計画・実施している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の希望に沿って戸外への外出は支援出来ていない。ご家族に相談を行い協力を得ての外出が殆どである。	各ユニットでの近隣への散歩などを中心とした外出支援を行っている。その他、家族の協力の下、外出が出来るように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1号館		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は現金を所持していますが、殆どどの利用者様が家族の管理になっています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族の許可の下、支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃美化委員会を中心に、季節に応じた飾りや小物にて居心地よく過ごせるように工夫している。庭も季節の花を植えたりして散歩を楽しんで頂く。設備に関して整っていない部分がある。		非常に広く作られたホームであり、施設内の環境美化に熱心に取り組むほか、ホーム内の装飾や敷地内の畑などを通じて四季が感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の席の配置等工夫している。廊下奥のスペースにソファを配置しいつでも談話が楽しめる空間作りをしている。また、玄関にもベンチを配置している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご家族には相談を行っているが新しく購入されることが多い。		全室畳の居室であり、必要に応じてマットなどを使用し、車いすの対応を図っている。また、家族の写真や使い慣れた家財など、自宅での生活環境の再現にも配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーには対応しています。一人ひとりが安全かつ自立した生活が送れる様努力している。			